

開催にあたって

元宮内大臣であり、幕末の志士の生き残りでもある田中光顕は、明治・大正期には別荘地であった小田原の海沿いに、大正13年(1924)に和館(現・白秋童謡館)を、昭和12年(1937)に洋館(現・小田原文学館本館)を建てました。特にモダニズム建築の洋館は、当時流行していたスパニッシュ様式を活かし、明るい外観と採光性に富んだ屋内は今なお色あせていません。

田中光顕は、小田原以外にも、静岡県に古谿荘こけいそうや青山荘せいざんそうといった邸宅を建てており、これらはいずれも現存しています。これらの邸宅は和式でありながら、伝統的工法から脱却した洋式の構造を導入し、和館に洋館を結合した様相となっています。

このたびの特集展示は、これら田中光顕の残した邸宅と、生涯に収集した資料を保存公開している施設を皆様に紹介するため、開催する運びとなりました。

田中光顕のかかわる近代建築に触れるとともに、彼の残した施設に興味を深める機会となれば幸いです。

平成25年3月 小田原文学館

1-1：田中光顕肖像 昭和14年（1939）頃

『維新風雲回顧展』図録（公益財団法人多摩市文化振興財団、平成23年）より転載
明治元年（1868）頃に撮影された写真を元にしてあります。歌は「ながいきのすへハ
いかにと人間はゞころされさりし 故とこたへむ」と記されており、田中の思いが
うかがえます。

1-2：田中光顕肖像 昭和12年（1937）頃

『維新風雲回顧展』図録（公益財団法人多摩市文化振興財団、平成23年）より転載
田中はその後半世において、維新の志士たちの活動を後世に伝えるべく、彼らの遺
墨などを積極的に収集するとともに、それらを展示する施設の設立に勤めました。

1-3：田中光顕一行実踏調査 昭和3年（1928）頃

『維新風雲回顧展』図録（公益財団法人多摩市文化振興財団、平成23年）より転載
田中が建設した施設の一つに多摩聖蹟記念館があります。この写真は、敷地となっ
た多摩村連光寺（現在の東京都多摩市）を実地踏査する田中一行を写したものです。
列前方で日傘をさしてリヤカーに乗っている人物が田中です。

1-4：富田幸次郎『田中青山伯』（青山書院、大正6年）

田中の談話を骨子として、著者自身の考証などを加えて記された伝記です。「青山」
は田中の号です。時系列に沿って田中の生涯が描かれるとともに、「青山伯の八面観」
と題して、「青山伯と武市瑞山」などのテーマで田中と交流があった人々の文章が収
録されています。

1-5：田中光顕『維新夜語』（改造社、昭和11年）

田中が明治維新の頃のことを語ったもので、「土佐勤王党の手入れ」「俊傑坂本龍馬」
などのテーマごとに分かれています。田中は「私の主義」と題された部分で、供養
塔の類は長い年月の間に失われる可能性があるが、記録はたとえ天変地異があつた
としても残るものなので、「百の供養塔よりも、先づ一の記録であると考え」と述
べており、維新の志士を顕彰することについての田中の考え方が読み取れます。

小田原文学館

本館・白秋童謡館

(神奈川県小田原市／小田原市所有／
国登録有形文化財)

江戸時代には侍屋敷が並ぶ武家地で、明治・大正時代には別荘地となった小田原町十字（現・小田原市南町）の西海子小路に、田中光顕は大正13年（1924）に和館を建て、別荘としました。昭和12年（1937）に建てられたモタニズム建築^{*1}の洋館は、当時流行していたスパニッシュ様式^{*2}を用いています。別荘は個人所有を経て小田原市の所有となり、洋館は平成6年（1994）の小田原文学館開館時に本館として公開を開始します。和館は平成9年（1997）に公開を開始し、平成10年（1998）から白秋童謡館となりました。

^{*1}モタニズム建築…20世紀初期からの近代主義建築。過去の様式を単純に踏襲はせず、鉄・ガラス・コンクリートなどの新素材を活用した。

^{*2}スパニッシュ様式（スパニッシュスタイル）…アメリカ合衆国の旧スペイン・メキシコ領で成立したスパニッシュ・コロニアル建築を基にした、19世紀末から20世紀前半の様式。オレンジ色の丸瓦、明色のスタッコ（化粧しっくい）、開口部のアーチ、鑄鉄の格子が特徴。

佐川町立青山文庫

(高知県高岡郡佐川町)

明治43年（1910）設立の私設図書館「川田文庫」が、大正4年（1915）に発足した「青山会」により引き継がれて誕生。佐川出身で、土佐藩家老・佐川領主の深尾家の家臣であった田中光顕により、多くの資料が寄贈されました。昭和38年（1963）に高知県立郷土文化会館の分館となり、平成3年（1991）に佐川町立となります。現在は、郷土ゆかりの資料を展示するほか、深尾家関係資料、田中文庫・田中家寄贈資料、西谷文庫などを所蔵しています。

開館 9時～17時（入場は16時30分まで）

休館 月曜（祝日の場合は次の平日）、12/29～1/3
所蔵資料の利用は、約1か月前をめどに
事前相談のうえ、申請を行うこと。

JR土讃線佐川駅から徒歩

電話：0889-22-0348

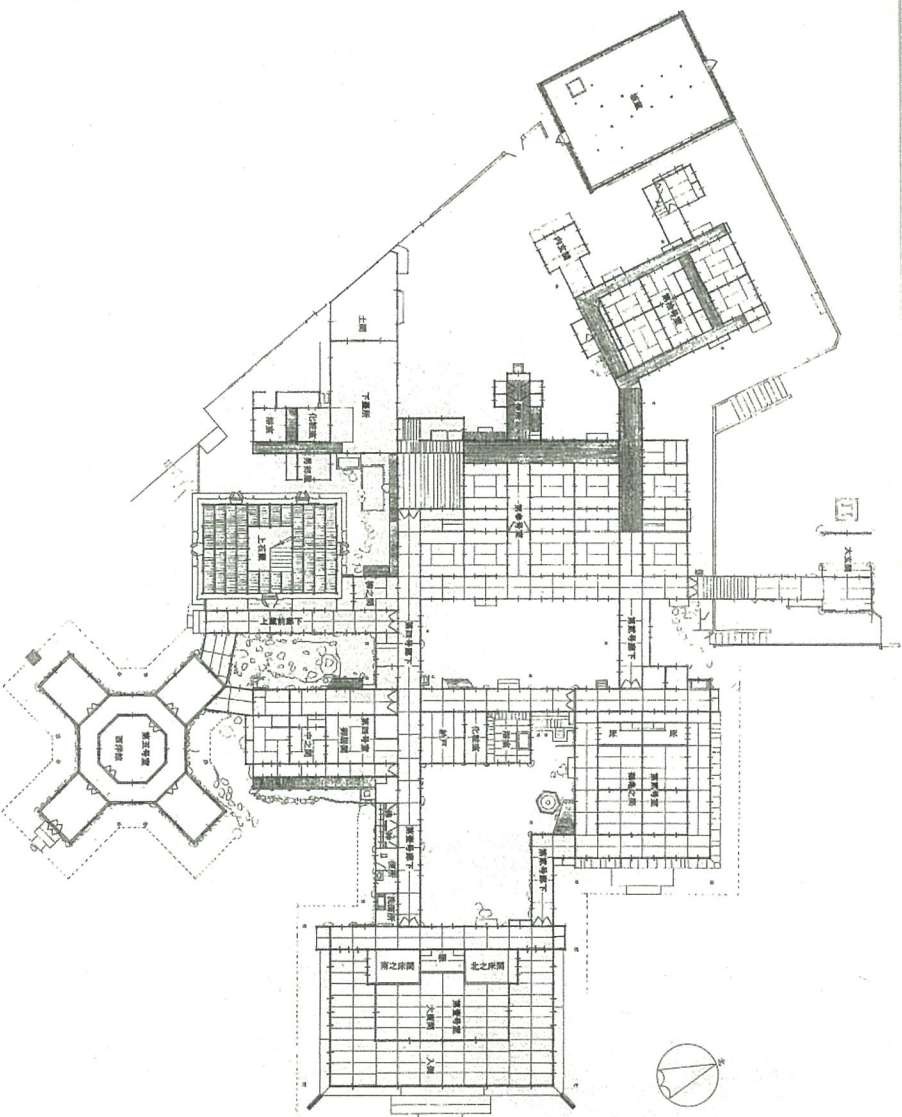
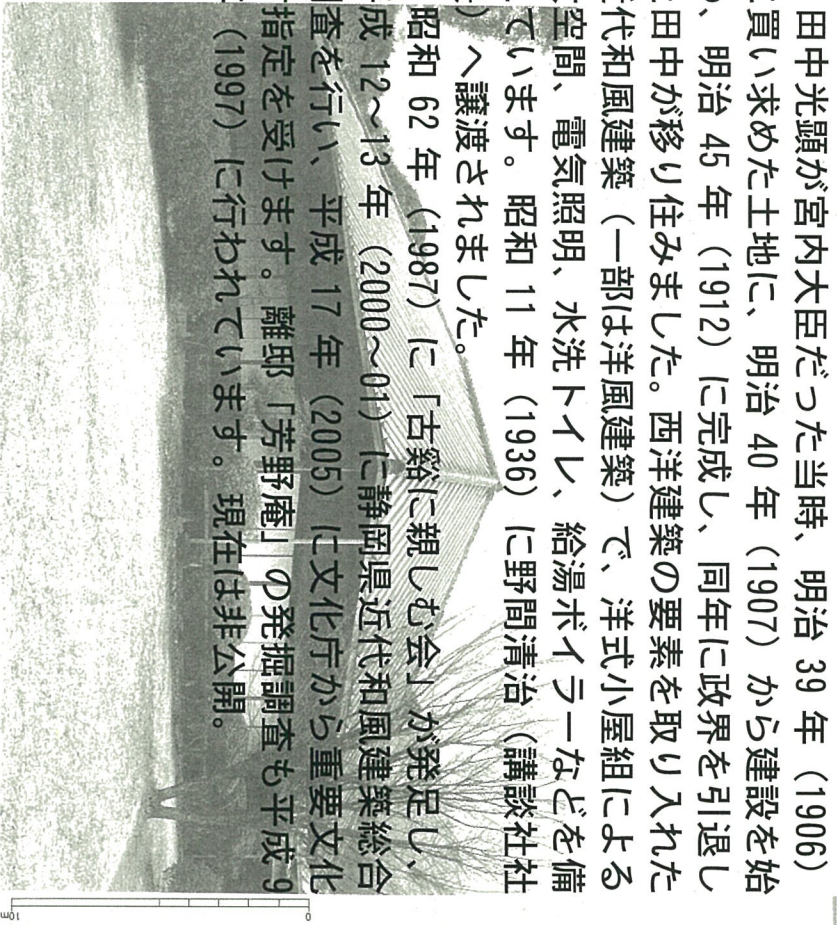
こけいそう 古谿荘 (野間別荘)

(静岡県富士市／野間文化財団所有／
国指定重要文化財)

非公開

田中光顕が宮内大臣だった当時、明治 39 年 (1906) に買い求めた土地に、明治 40 年 (1907) から建設を始め、明治 45 年 (1912) に完成し、同年に政界を引退した田中が移り住みました。西洋建築の要素を取り入れた近代和風建築 (一部は洋風建築) で、洋式小屋組による大空間、電気照明、水洗トイレ、給湯ボイラーなどを備えています。昭和 11 年 (1936) に野間清治 (講談社社長) へ譲渡されました。

昭和 62 年 (1987) に「古谿に親しむ会」が発足し、平成 12～13 年 (2000～01) に静岡県近代和風建築総合調査を行い、平成 17 年 (2005) に文化庁から重要文化財指定を受けます。離邸「芳野庵」の発掘調査も平成 9 年 (1997) に行われています。現在は非公開。



せいざんそう 青山荘

(静岡県静岡市清水区 / 日本軽金属株式会社
(蒲原製造所) 所有)

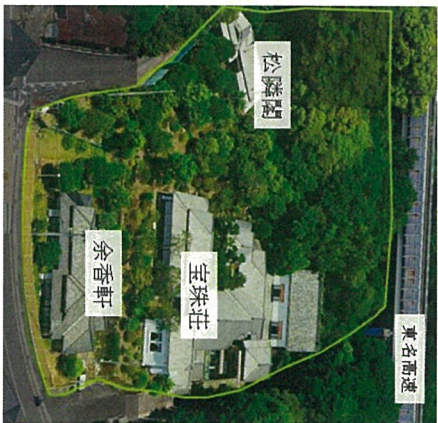
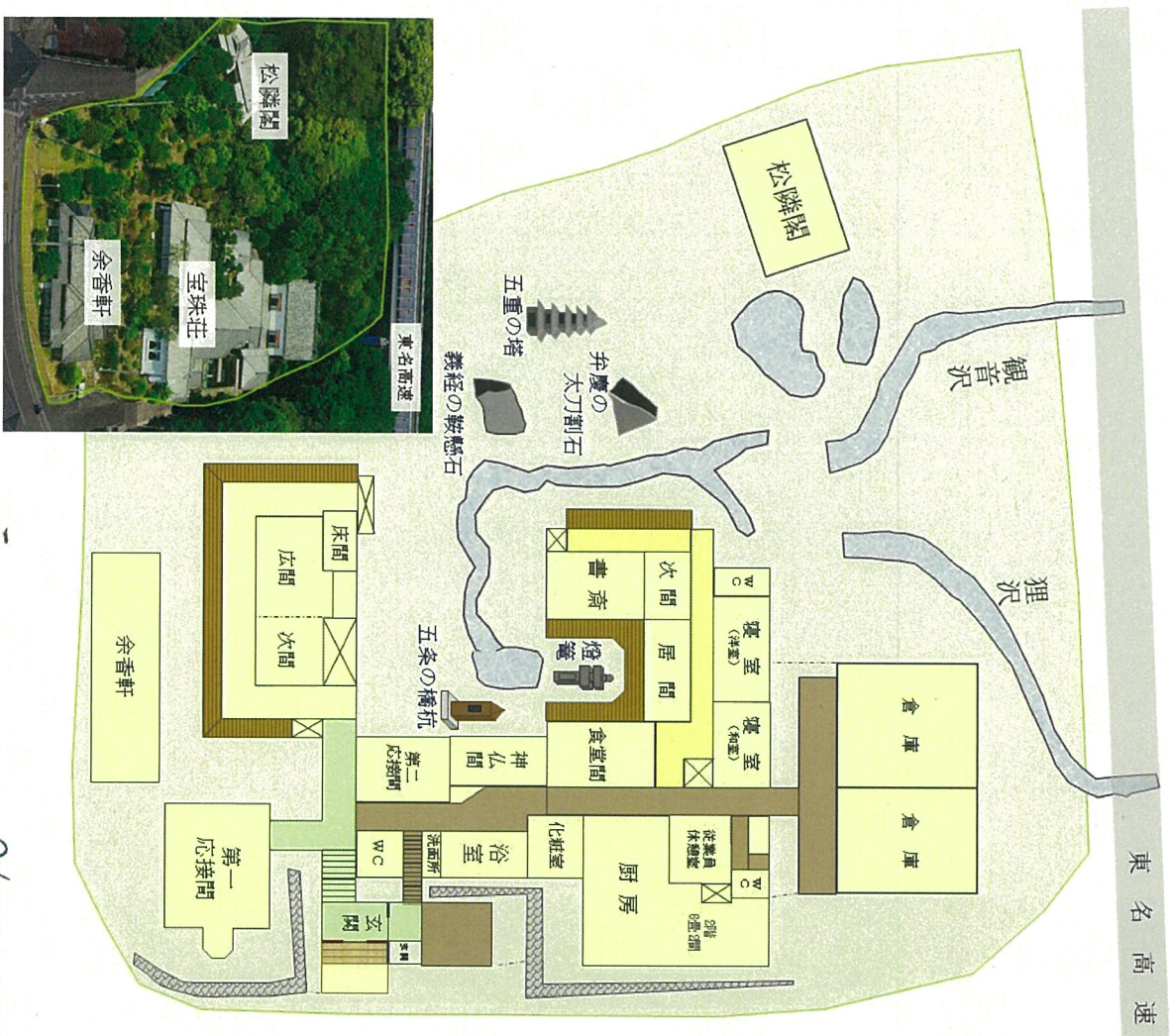
非公開

田中光顕は古谿荘より小規模な邸宅を温暖な場所に求め、大正3年(1914)に駿河湾に面した蒲原で土地を入手し、大正5年(1916)に建設を始めました。田中は
大正7年(1918)に移住しましたが工事は続き、大正15年(1926)に完成します。田中が昭和14年(1939)に亡くなった場所も青山荘でした。敷地には菜園、ミカン畑、水田などもありましたが、今は建物と庭園のみが残っています。現在は非公開。



青山荘

四千坪の敷地と建物全体が青山荘



大洗町幕末と明治の博物館

(茨城県東茨城郡大洗町)

田中光顕らにより、幕末・明治の志士ゆかりの地である水戸藩領であった大洗に、「常陽明治記念館」として昭和4年(1929)に聖像殿を、昭和7年(1932)に陳列館を完成。平成9年(1997)に「幕末と明治の博物館」と改名し、新館を増築してリニューアルしました。平成22年(2010)に、常陽明治記念会から大洗町へ移管されます。幕末の水戸藩や志士ゆかりの品を主に展示しています。

開館 9時～17時 (入場は16時45分まで)

休館 水曜(祝日の場合は次の平日)、年末
海の日から8月31日まで無休

鹿島臨海鉄道大洗駅から循環バスで幕末と明治の博物館入口下車
JR常磐線水戸駅から茨城交通バスで幕末と明治の博物館下車

電話 : 029-267-2276

旧多摩聖蹟記念館

(東京都多摩市/多摩市指定有形文化財)

明治天皇がたびたび行幸したことを記念して、田中光顕らにより、「多摩聖蹟記念館」として昭和5年(1930)に開館。昭和61年(1986)に多摩聖蹟記念会から多摩市に寄贈され、「旧多摩聖蹟記念館」となりました。幕末・明治の志士ゆかりの書画を主に展示しています。

開館 10時～16時

休館 月曜・水曜(祝日の場合は次の平日)、12/29～1/3、
その他臨時休館

京王線聖蹟桜ヶ丘駅、または京王相模原線・小田急多摩線永山駅から、京王バスで記念館前下車

電話 : 042-337-0900